

2019年度 上期決算説明会

2019年12月5日（木）
株式会社パイオラックス
（コード：5988）
代表取締役社長 島津幸彦

目 次

1. 2019年度上期進捗状況
 - ①5大リスク影響
 - ②上期トピックス

2. 中期経営計画達成に向けた取り組み
 - ①拡販活動
 - ②海外拠点（米国・中国）
 - ③レイモン社との協業
 - ④国内リニューアル計画
 - ⑤ESG経営

3. 医療機器事業の現況と展望

・ ・ 柴田パイオラックスメディカルデバイス社長

上期ご説明のポイント

【2019年度】

- 連結業績&配当：5月11日開示内容から変更無し
上期は減収減益となったが、ほぼ計画通り
- 当社の5大リスク（客先減産・原材料高騰・労務費高騰・米中貿易摩擦・BREXIT）は一部で改善が見られるが、引き続き注視していく
- 厳しい環境が続く中、下期計画必達及び2020、2021年度増収増益を目指した体制強化に取り組む
2021年度（2018年度比）+5%成長（営業利益率15.3%）
* 中期経営計画データは末尾の「ご参考資料」をご覧ください。

1. 2019年度上期進捗状況

① 5大リスク影響

5大リスク上期状況要約

■ 期首影響予想（対Fy18 営業利益影響予想）

（億円）

主要客先 減産	原材料高騰	労務費高騰	米中貿易 摩擦影響	Brexit影響	合計
日産減産影響	PA66高騰	賃金上昇	中国⇒米国関 税	暫定対応費	
△9.5	△5.6	△5.0	△1.1	△0.5	△21.7



■ Fy19上期傾向感

日産減産影響 拡大 他社減産影響	若干沈静 傾向	一部労務費 減あるものの 賃金上昇	影響減少 一部費用客先 回収	停滞	
△12.0	△5.2	△5.0	△0.7	△0.4	△23.3

厳しい状況ではあるものの、拡販、省人化による打ち返し、為替影響の増益効果などにより、Fy19営業利益目標の80億円は達成見込み。

① 日産減産への対応

■ 期首予測及び対策

影響額 対18年度比 △9.5億円

- ・ 日産減産の影響増

＜対策＞

- ・ 客先多角化

① 日産圏売上は増やしながら
依存度を下げる

② 海外メーカー向け販路拡大

③ ホンダ／トヨタ向けグローバル拡販展開

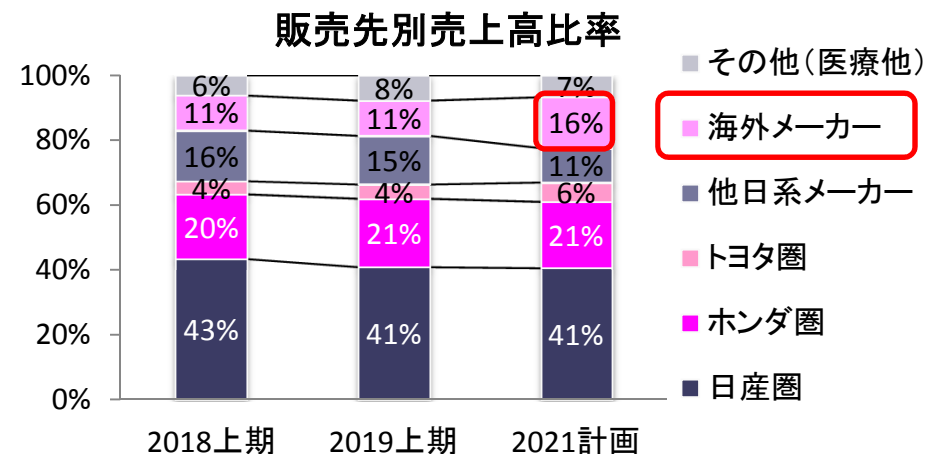
■ 上期状況

影響額 対18年度比 △12.0億円

- ・ 日産減産影響が拡大
- ・ 日産以外のカーメーカー減産影響増

■ 今後の計画

- ・ 客先多角化推進の強化継続



②原材料費高騰への対策

■期首予測及び対策

影響額 対18年度比 約△5.6億円

<対策>

対策① 材料代替品検討

- ・ 高騰著しいPA66に代わる新材料への切り替え促進
- ・ 海外廉価材の発掘

対策② 売価への反映

対策③ グローバル購買による最適価格での材料購入

■上期状況

影響額 対18年度比 約△5.2億円

- ・ 原材料費高騰は一部沈静化
- ・ 客先転嫁については、一部客先にて妥結ケースあるものの、交渉は難航
- ・ 鉄鋼メーカー被災による新たな供給リスク発生

■今後の計画

- ・ 対策①②③の継続
- ・ 鉄鋼材の供給リスク対策を急ぐ

③ 労務費高騰への対策－ 1

■ 期首予測

影響額 対18年度比 約△5.0億円

<対策>

- ・ 自動化による省人化加速
- ・ 自動化省人化による合理化予測
Fy19：1.5億円、Fy20：6億円

<2019年度自動化省人化計画>

	アイテム 件数	省人数	地 域	省人数
全 体	121件	164人	北 米	53人
国 内	22件	12人	中 国	61人
海 外	99件	152人	アジア	33人
			欧州	5人

■ 上期状況

影響額 対18年度比 約△5.0億円

- ・ 労務費高騰は一部緩和
海外拠点を中心に自動化省人化が進み、賃金上昇を打ち返し
- ・ 海外拠点を中心に生産減による人員減

<2019年度上期自動化省人化実績>

	アイテム 件数	省人数	地 域	省人数
全 体	63件	93人	北 米	25人
国 内	5件	3人	中 国	48人
海 外	58件	90人	アジア	15人
			欧州	2人

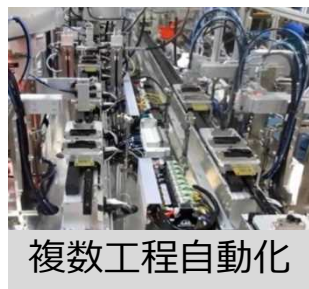
■ 今後の計画

- ・ 自動化省人化加速を継続
- ・ 賃金高騰リスクは引き続き警戒

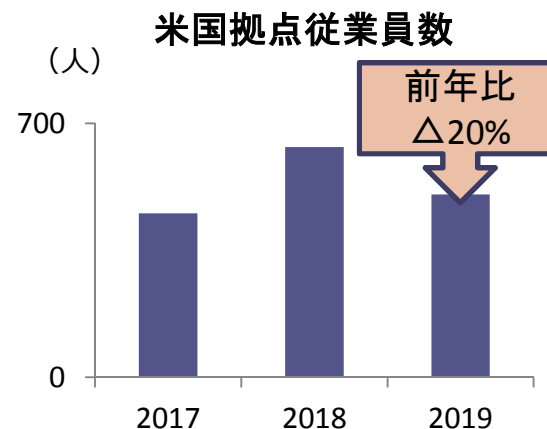
③労務費高騰への対策－2

自動化・省人化への取り組み

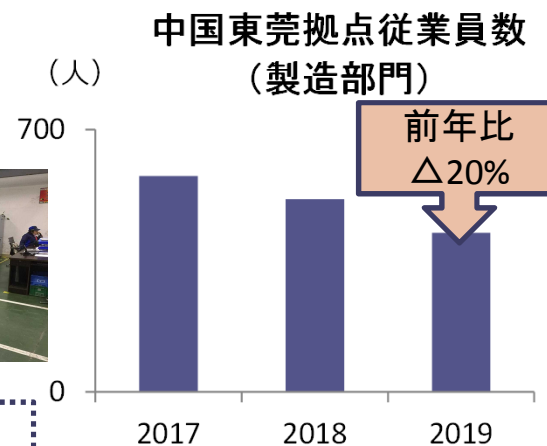
- 取り組み事例①（米国拠点：開閉機構部品）
自動組立装置の導入 省人化△9名



構成部品が多く
工程数が多い作
業を自動化



- 取り組み事例②（中国東莞拠点：クランプ部品）
金属組立一体の導入 省人化△16名



④米中貿易摩擦への対策

■期首予測及び計画

影響額 対18年度比 約△1.1億円

＜関税対策＞

- ・ クランプ部品生産再配置
2019年4月に日・米・中3拠点プロジェクト立上げ
- ・ 2019年度米国拠点でのクランプ現地化推進

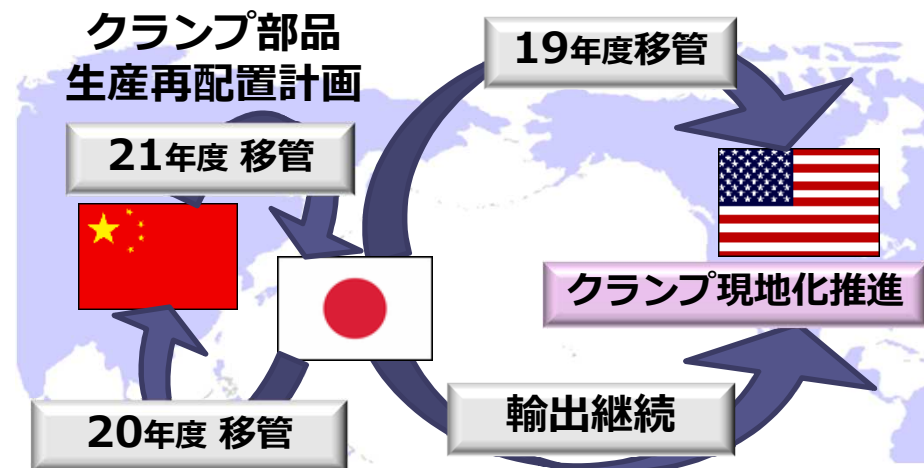
■上期状況

影響額 対18年度比 約△0.7億円

- ・ 客先より一部費用回収実施により、
影響額は当初より緩和
- ・ クランプ部品生産再配置は計画通り進行
2019年9月 米国拠点レイアウト変更完了
2019年度内 米国拠点現地生産正式稼動

■今後の計画

- ・ クランプ生産再配置計画の推進
- ・ 米国拠点にてクランプの生産
スペース拡大



⑤ Brexitへの対策

■ 期首予測及び対策

影響額 対18年度比 約△0.5億円

<対策>

- ・ 合意なき離脱に備え、臨時在庫の保管用倉庫をオランダに確保
- ・ 2019年3月より臨時追加在庫の取り入れ開始
- ・ 欧州生産の一部を業務提携先“レイモン社（仏）”へ委託検討



臨時倉庫（オランダ）

■ 上期状況

影響額 対18年度比 約△0.4億円

- ・ Brexitの離脱期限は来年に延期のため、影響は縮小
- ・ 臨時在庫用の保管用倉庫（オランダ）レンタル継続中

■ 今後の計画

- ・ 欧州戦略再構築の検討
客先の英国撤退による当社英国拠点の減収懸念高まる。
大陸を含めた長期的欧州戦略の構築を急ぐ。

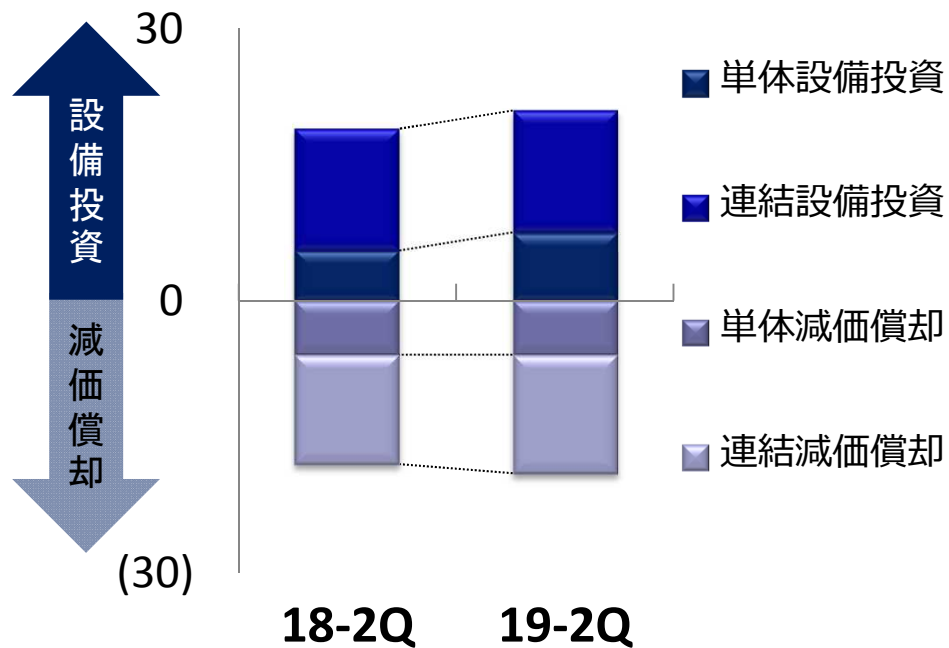
1. 2019年度上期進捗状況

②上期トピックス

設備投資・減価償却

設備投資・減価償却 対前年同期比較

単位：億円



* 設備投資・減価償却ともに
計画通り進捗

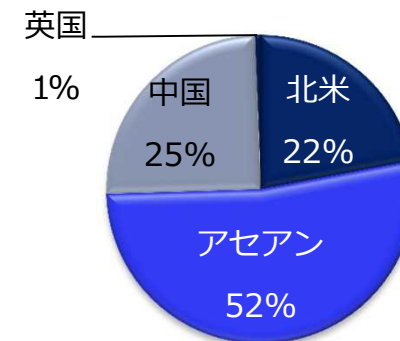
■ 19年度上期主な投資 【海外】

- ・ 米国 隣接土地工場購入
- ・ 米国 自動化設備
- ・ アセアン 能力増強
- ・ 中国 能力増強

【国内】

- ・ 国内リニューアル（真岡総合事務所移転など）

■ 海外拠点設備投資比率 2019年度上期



自己株式取得

■ 取得状況

取得期間	2019年11月7日～2019年11月30日
取得した株式総数	588,100株
取得価額の総額	1,304,028,500円

■ 自己株式取得に関する決議内容

取得期間	2019年11月7日～2020年3月19日
取得株式総額	2,000,000,000円を上限とする
取得株式数	1,500,000株を上限とする

自己株式取得については、ROE改善も視野に、今後の状況を見ながら検討していく。

2. 中期経営計画達成に 向けた取り組み

非日系拡販－ 1

中国拡販

■ 拡販ターゲット

- ・ 燃料系部品
- ・ 非日系（特に中華系OEM）
- ・ NEV（新エネルギー車）向け製品

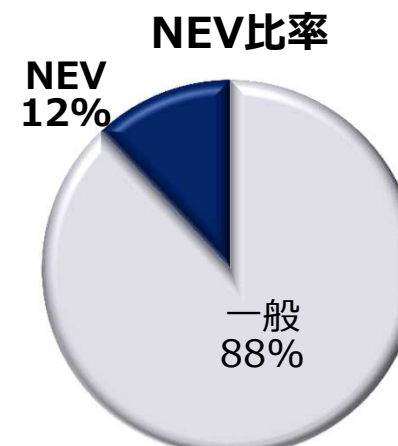
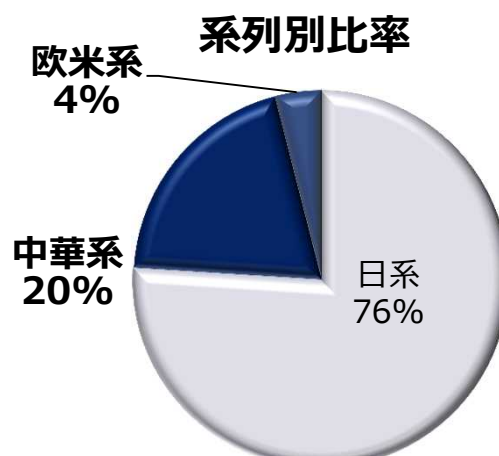
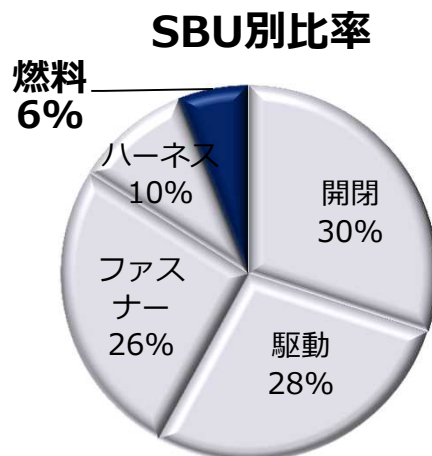
■ 4 支店を活かした活動

- ・ 上海支店
- ・ 天津支店
- ・ 武漢支店
- ・ 広州支店

拡販ターゲット
燃料系部品



2019年度中国営業 拡販内訳（年度見込み）



非日系拡販－ 2

欧州OEM拡販

主要客先の英国撤退への対策を含め、今後の欧州ビジネス戦略の再構築検討

■ドイツOEM拡販

- ・メキシコでVW初受注獲得
中国をはじめとするVWグループへの拡販推進
- ・英国拠点とZAT社協働で他ドイツOEM受注獲得に向けて活動強化

■ルノー拡販

- ・2020年にフランスにて展示会開催予定

* ZAT社（ドイツ）
2018年に代行営業契約を締結

米国BIG3拡販

- GM 標準ラッチのグローバル展開
- Ford 開閉機構部品中心に受注拡大
- FCA RAMトラック受注をはじめ、開閉機構部品中心に受注拡大

拡販ターゲット 開閉機構部品
(グローブボックス装着)



ラッチ類



スプリング
クッション

拡販製品

2K部品（燃料系部品）

海外の環境規制強化に向けた開発

- ・ 中国市場での拡販推進
- ・ 現在は日本／韓国にて生産、今後は米国・中国でのグローバル生産拡大を狙う（20年度：中国生産開始予定）

2色成形して**燃料透過防止性能**を向上した部品。



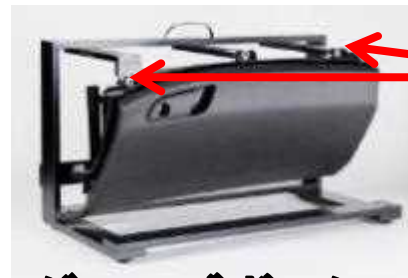
当社2K開発品



スプリングクッション（開閉機構部品）

グローバル展開を目指す製品開発

- ・ 搭載車種拡大
- ・ 欧州系/中国系OEMへの拡販推進
- ・ 社内の静粛性要求の高まるEV/HEVへの採用拡大も狙う
- ・ 北米／中国を中心に生産拡大を計画



グローブボックス



スプリング
クッション

米国拠点の取り組み

現地化推進と生産増強

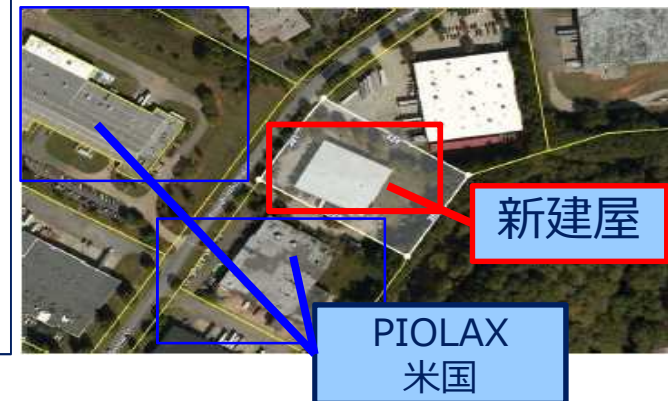
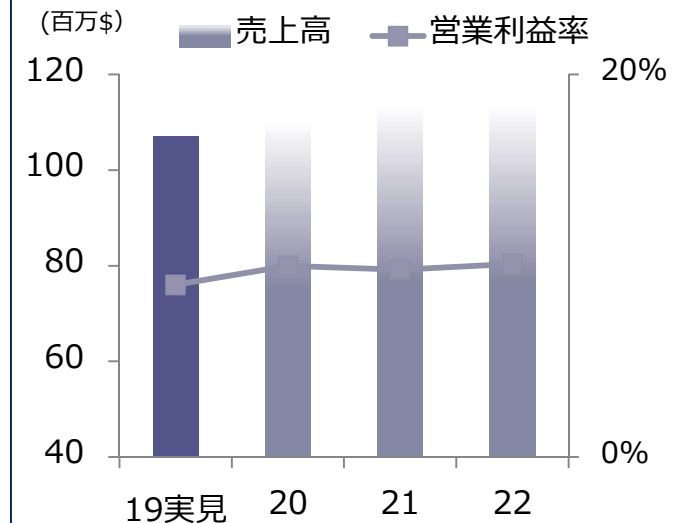
■ 2019年度

- ・ 日産減産影響
- ・ GMストライキ影響
- ・ EV販売低迷
- ・ 米中貿易摩擦による影響

■ 中期経営計画達成に向けた取り組み

- ・ BIG3拡販推進
- ・ 燃料系部品受注拡大（開閉機構部品以外の拡販拡大）
- ・ 自動化/省人化加速による賃金上昇打ち返し
- ・ 2019年度：ホースクランプの中国からの移管完了
ジョージア拠点隣接の土地/建屋購入
2020年度：建屋を改修し、生産スペースを拡張

売上高・営業利益率



中国拠点の取り組み

武漢拠点の設備増強

■ 2019年度

- ・ 客先の大幅減産影響
- ・ 材料費高騰影響
- ・ 米中貿易摩擦による影響

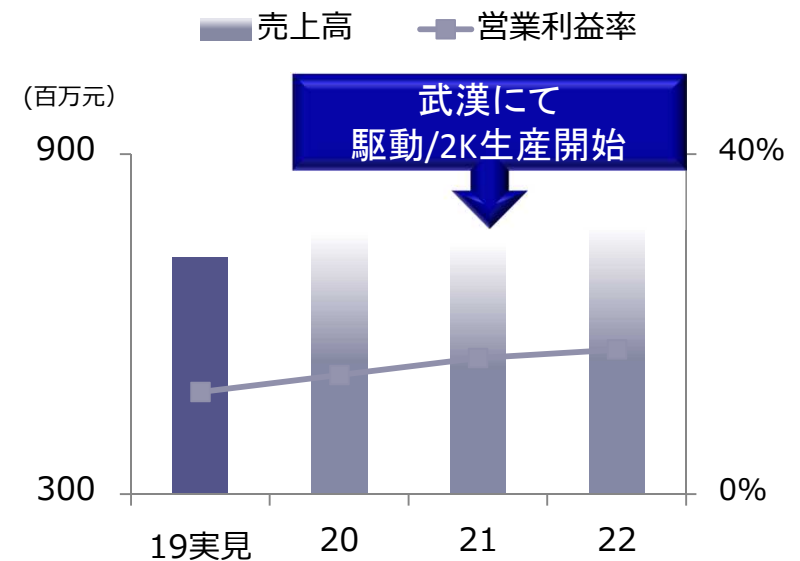
■ 中期経営計画達成に向けた取り組み

- ・ 中華系／欧米系OEM拡販推進
- ・ 販社体制の強化

＜武漢工場＞

- ・ 中国における駆動系部品二一ズ対応
2020年度 駆動系部品生産開始
- ・ 中国環境規制に対応
燃料系部品拡販推進
2020年度 2 K部品（燃料系）生産開始

売上高・営業利益率



レイモン社（仏）との協業

2017年10月 フランスのレイモン社と業務提携締結

提携の目的： 当社顧客要望である当社未進出地域でのビジネス拡大

レイモン社経営資源を活用した欧米OEM拡販とビジネス拡大

■タイにて協業による新規受注獲得

O E M	Vinfast（ベトナム）
車 種	LUX A2.0
採用製品	ハーネスクリップ
発 売	2019年10月



■今後の活動

- ・日産&ルノーへのPR活動
2020年にルノー（仏）での初の展示会開催予定
- ・インドネシアでの新たなビジネス展開予定
- ・当社未進出地域（ブラジルなど）でのビジネス拡大推進

国内リニューアル計画

■新真岡ゼネラルオフィス移転

- 2019年8月 真岡ゼネラルオフィス（真岡総合事務所）への移転完了
- 真岡工場の空いたスペースを製造現場拡張に活用

真岡工場	工務関連・食堂
	製造事務機能一部
	開閉機構部品製造関連一部
真岡支店	営業／設計機能
YTC（横浜テクニカルセンター）分室	研究開発（実験）一部

移転

真岡ゼネラルオフィス（MGO）



真岡工場隣接地 地下1階、地上3階建て
5,746㎡

■国内リニューアルプロジェクト予定

YTC（横浜テクニカルセンター）

2019年度	旧YTC解体
2021年度	着工予定
2022年度	新YTC稼動予定

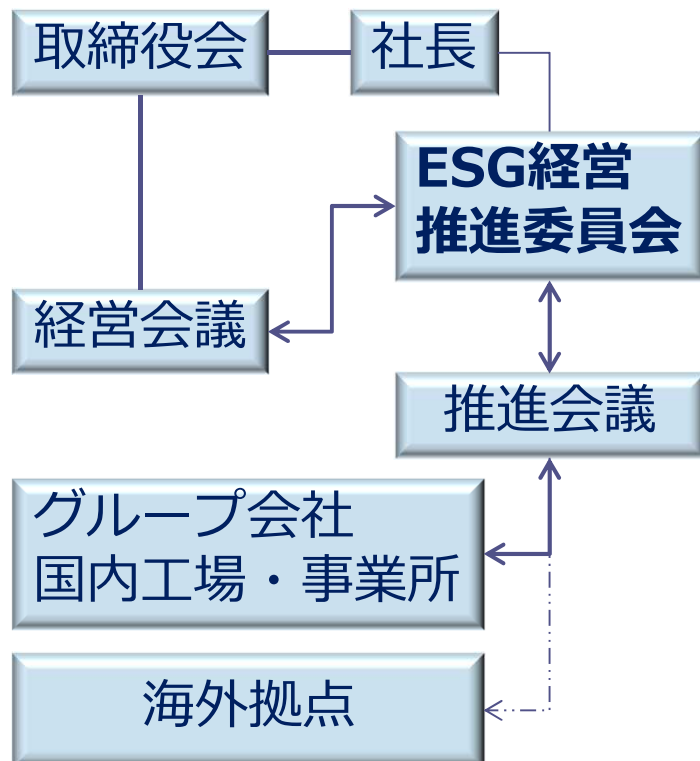
真岡新工場

2018年度	隣接土地建屋購入
2021年度	着工予定
2022年度	新工場稼動予定

ESG経営－1

ESG経営推進委員会設置

2019年9月委員会設置



SDGsへの取り組みを通じ、ESG経営を推進強化していきます。

社是「至誠」、「協力」、「奉仕」の下、環境、社会、ガバナンス向上を目指し、グローバル企業として持続可能な社会に向けた貢献を目指します。



ESG経営－2

ガバナンス強化

攻めの経営
中長期的な企業価値向上
を目指します

■ 2016
監査等委員会設置会社移行

■ 2017
取締役向け株式報酬制度導入

■ 2018
取締役の1/3を社外取締役に

■ 2019
指名・報酬諮問委員会
設置

医療事業の現況と展望

2019年12月5日（木）

(株)パイオラックスメディカルデバイス

代表取締役社長

柴田晴仁

サマリー

- **19年度 上期予算実績**
 - 売上・利益計画通り
- **中期計画進捗**
 - 消化器、泌尿器用ガイドワイヤー投入
 - 中国・米国向け拡販
- **新商品のご紹介**
 - 内視鏡用ガイドワイヤー

'19 上期販売実績(4月～ 9月)

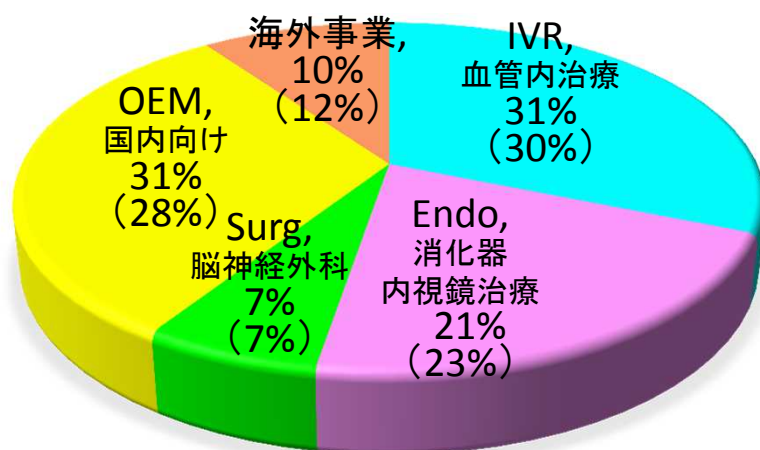
(単位:百万円)

(単位:百万円)

	上期 予算	上期 実績	達成率	前年 実績	伸び率
売上高	2,224	2,153	96.8%	2,154	0%
営業利益	70	121	172.1%	141	▲14.2%

今期予算	今期見通し
4,423	計画通り
201	同上

上期売上実績構成比率



() 内は前年同期の構成比率

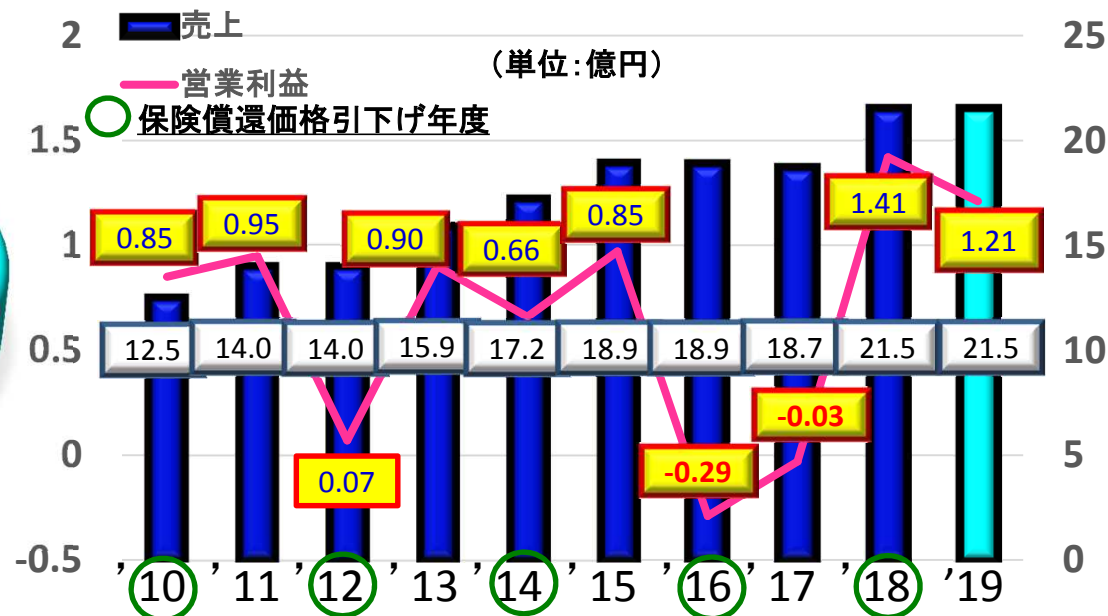
年度別上期販売実績推移

営業利益

売上

(単位:億円)

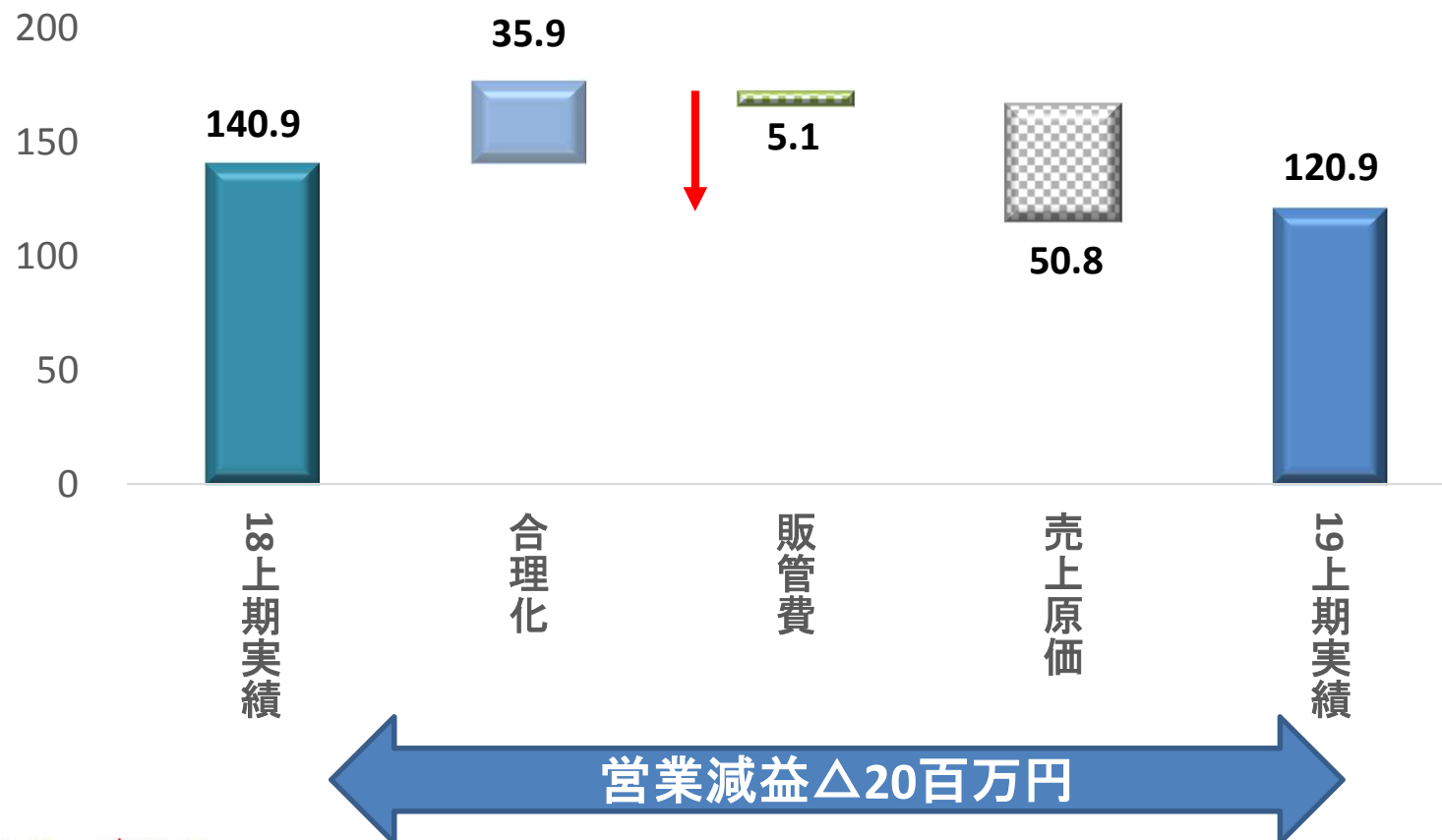
売上高



営業利益差異分析（vs 前年上期比較）

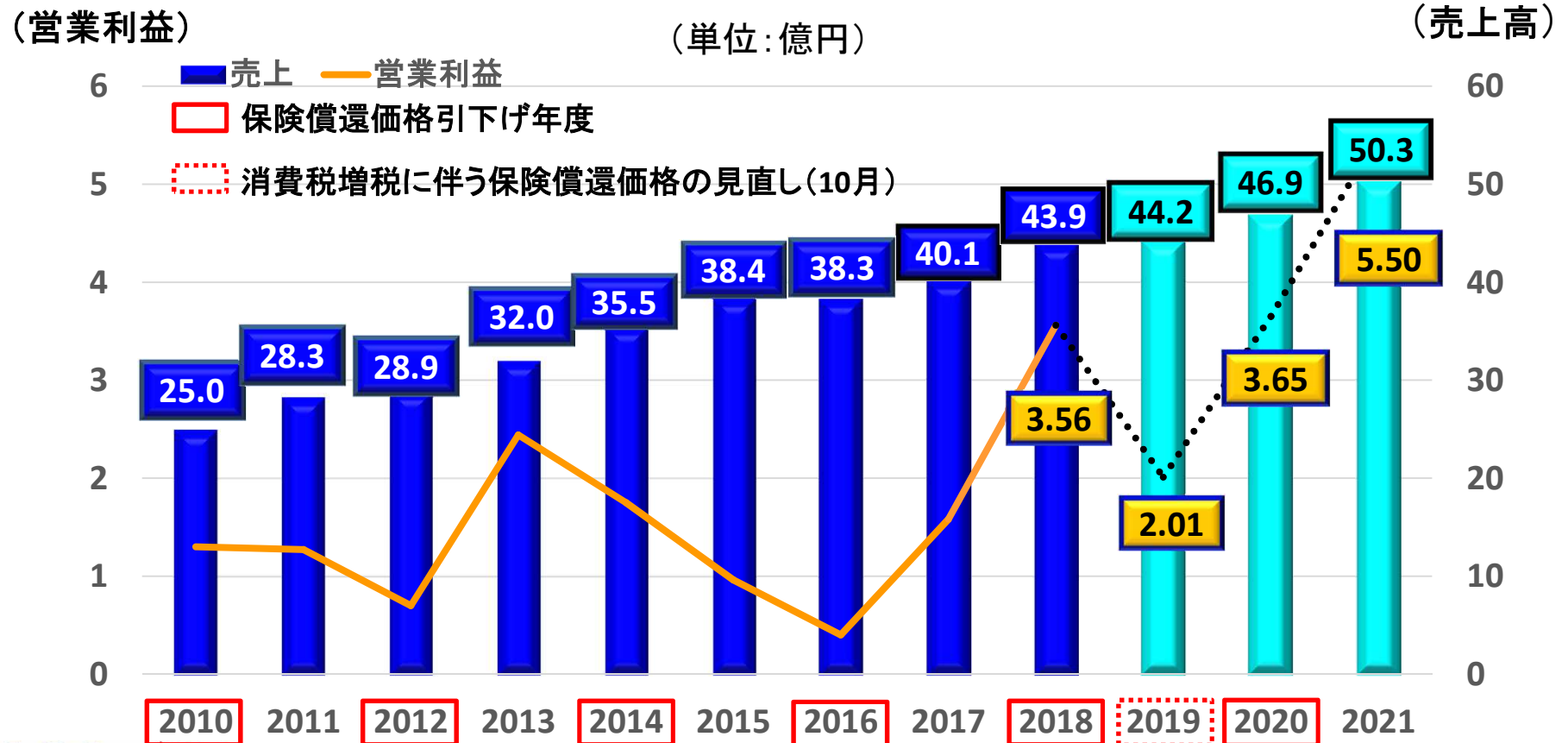
- ・2019年度上期の営業利益は121百万円。前年実績対比△20百万円。
- ・前年実績差△20百万円の内訳は以下の通り。
合理化（+36百万円）に対し、労務費及び間材費等による売上原価増△50.8百万円、販管費増△5.1百万円等により、減益。

（単位：百万円）



中期計画(2019-2021)

1. 特定市場へ差別化商品の投入(特定市場の差別化戦略)
2. 新商品導入スピードアップと新商品ラインナップ強化
3. 海外への進出強化
4. 国内販売ネットワーク強化



中期計画達成のポイント

《新商品の毎年度投入計画と販売地域の拡大》

ON PLAN

◆国内展開

- ・「胆管用メタリックステント」経皮経肝用投入（2019年度 4月上市）
- ・「薬剤エマルジョン生成デバイス」投入（2019年度 6月上市）
- ・「消化器内視鏡用ガイドワイヤ」投入予定（2020年度 2月）
- ・「泌尿器内視鏡用ガイドワイヤ」投入予定（2021年度 2Q）
- ・「血管塞栓用マイクロコイル」投入予定（2021年度 3Q）

◆海外展開

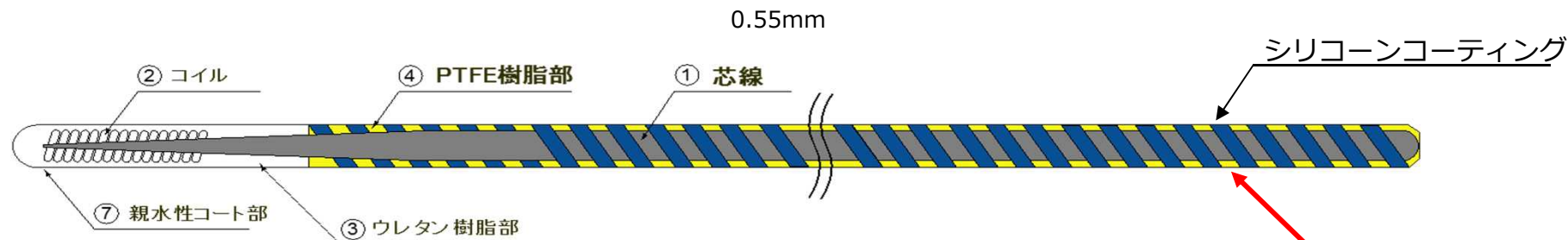
- ・オリンパスアメリカ社向け「消化器内視鏡用ガイドワイヤ」販売委託による米国市場への投入開始（2019年度 5月投入）
- ・台湾への「肝癌治療用マイクロカテーテル&マイクロガイドワイヤ」投入予定（2019年度4Q）
- ・中国市場の「肝癌治療用マイクロカテーテル&マイクロガイドワイヤ」の薬事承認取得予想時期（2019年度 4Q）、及び2020年度2Qより投入予定
- ・欧州、ASEAN（主にタイ・ベトナム）への肝癌治療用「造影能強化型マイクロカテーテル」CE マーク取得による投入予定（2020年度 1Q投入予定）

◆利益計画の達成

- ・新製品のOn Plan上市と拡販による増収効果
- ・2020年度・2021年度の各年度1億円以上の合理化活動（固定費削減等）

消化器内視鏡ガイドワイヤ新製品「SeekMaster」

併用deviceとの接触抵抗を最小限にすることにより、
滑り性・操作性を大幅に向上した消化器内視鏡ガイドワイヤ



Part No.	Diameters	Lengths	Tip design
PXSS-3545	0.035"	4,500mm	Straight
PXSA-3545	(0.76mm)		angled(60)



他社製品
(表面がフラット)

当社現行製品
(表面が凸凹)

当社新製品(表面が凹凸が鋭利)

【販売目標】

2020年度：110百万円

2021年度：165百万円

2022年度：248百万円

2020年2月全国発売予定

PMD VISION



「低侵襲治療」の手技を標準化できる医療機器の提供
を通じて、世界の患者様を救える企業を目指します！

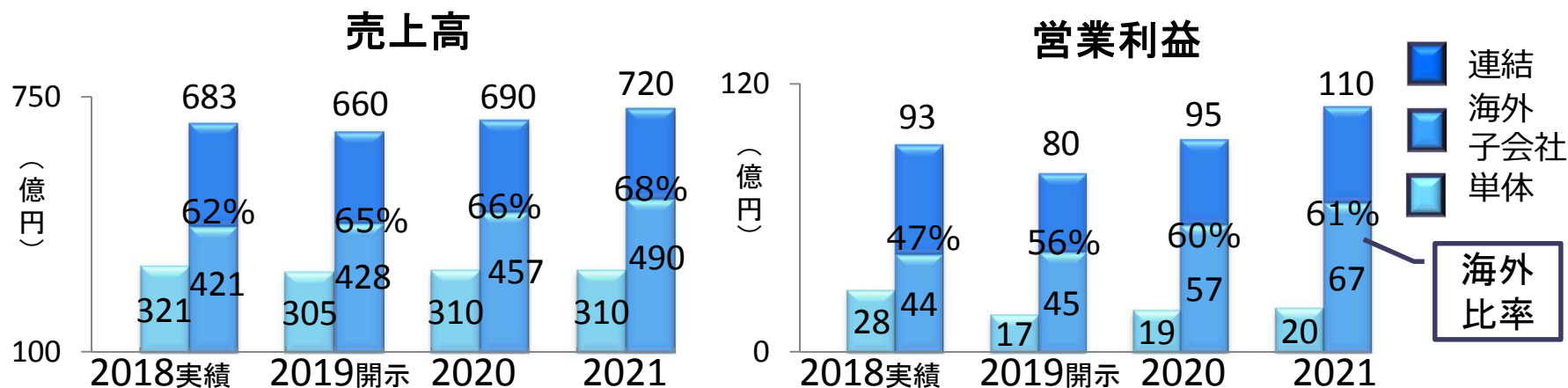
～低侵襲医療機器で社会に貢献します～

ご参考資料

*ご参考資料①～④中期経営計画は
2019年6月6日に発表した内容から
修正変更しておりません。

ご参考資料① 中期経営計画－1

2021年度 経営指標	
連結売上高	720億円
内、海外拠点	490億円 海外比率：68%
連結営業利益	110億円 利益率：15.3%
内、海外拠点	67億円 利益率：13.7%



	2018実績	2019開示	2020	2021	伸び率 (21/18)	為替調整後 (参考)
売上高	683	660	690	720	+5.4%	+1.1%
営業利益	93	80	95	110	+18.3%	+0.9%
営業利益率	13.6%	12.1%	13.8%	15.3%	—	—

* 連結仕訳(内部取引)が内数にある * 1US\$=105円

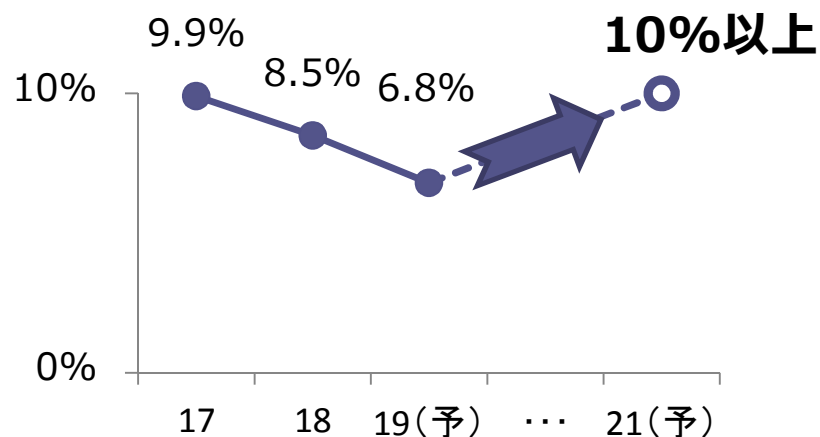
ご参考資料② 中期経営計画－2

資本政策

ROE
2021年度目標：10%以上

- 今計画で目標値を見直し。
- 目標を10%以上とし、引き続きROE向上への取り組みを継続。

ROE推移

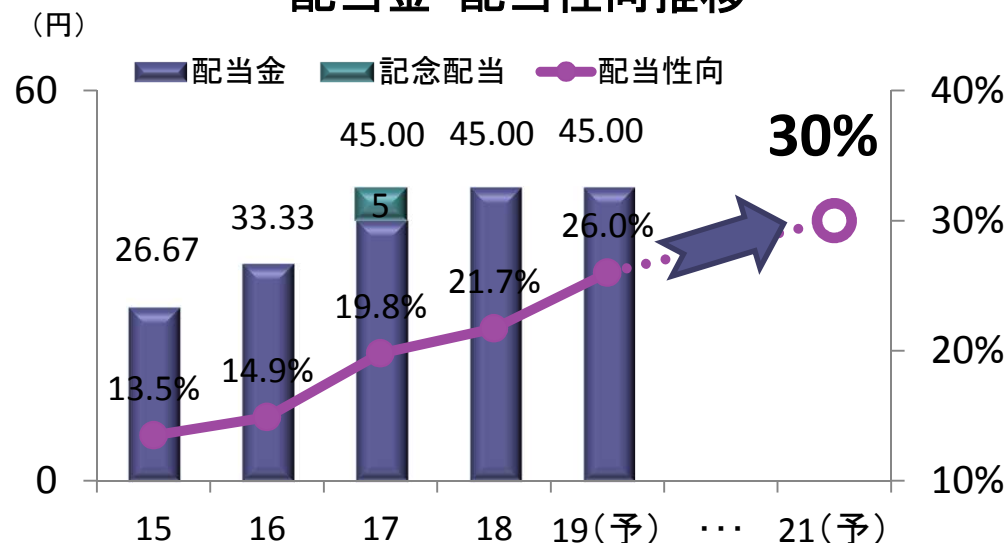


株主還元方針

連結配当性向
2021年度目標：30%

- 前回中計目標（2020年度：25%）は19年度に達成見込み。新たな目標を設定。
- 利益成長に伴う安定的な配当を実施。

配当金・配当性向推移

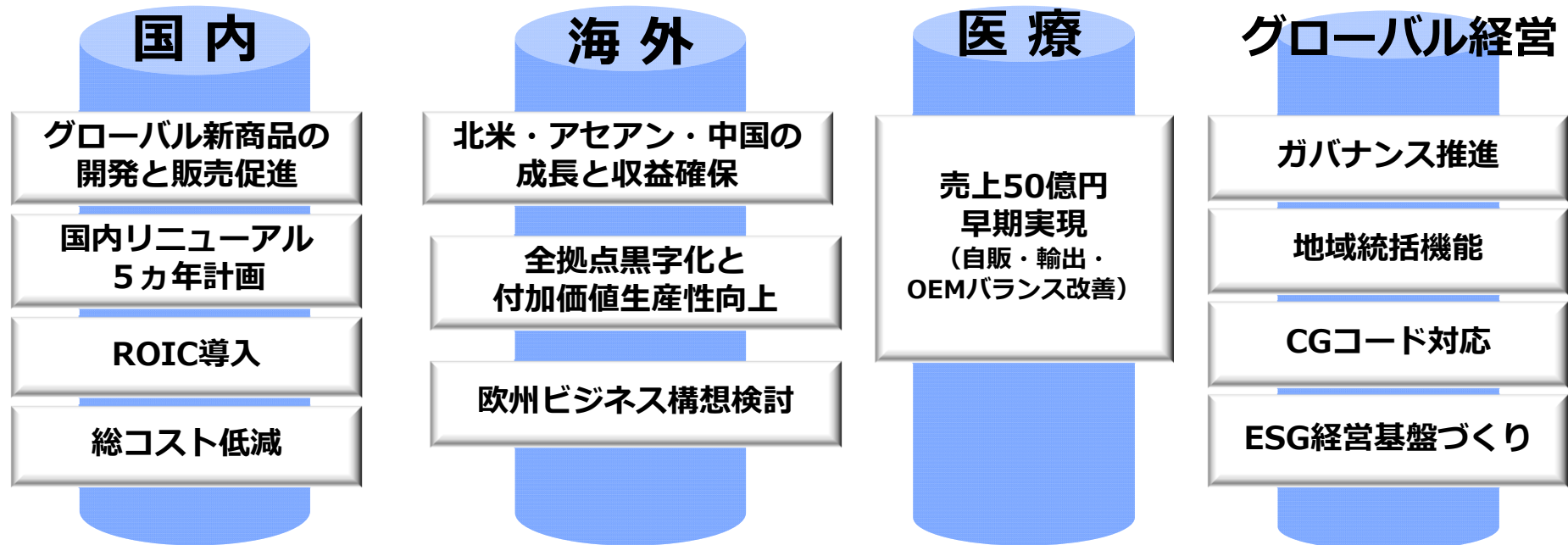


(注) 配当は、2017.4.1を効力発生日とした株式分割（普通株式1株を3株に分割）後の値に調整しております。

ご参考資料③ 中期経営計画－3

計画の前提

- 世界経済はFy20まで微減速
- Fy19は米国経済が底支えも中国・欧州は減退
- 世界自動車生産台数 Fy19：9,500万台 ⇒ Fy21：1億台
- 想定リスク：米中貿易摩擦/Brexit/材料費高騰/労務費アップ/日産減産



ご参考資料④ 中期経営計画－4

多角化推進戦略の目指す指標

地 域

北米／アセアン／中国／欧州 ＝ 3:3:3:1

商 品

①**成長戦略商品**を海外OEM拡販につなげる
成長戦略商品 : 成熟締結商品 3:7 ⇒ 4:6へ
(燃料系・開閉機構部品) (ファスナー・駆動系・ハーネス部品)

②**将来商品群**(環境対応部品、自動運転、安全対応部品)の構築

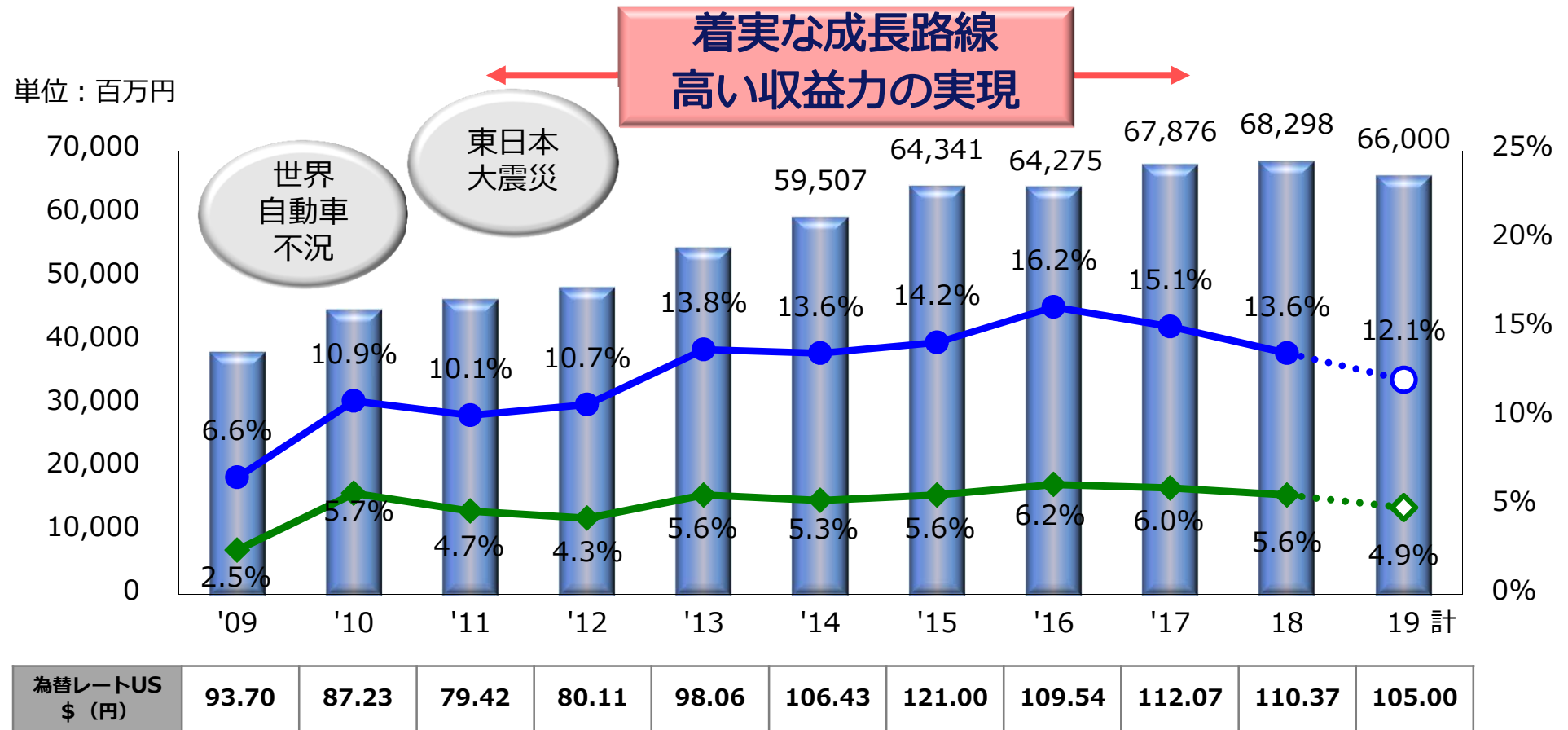
顧 客

海外OEM向け販売比率 20%目標

事 業

医療事業構成比率 6%⇒10%目標

売上高・営業利益率推移（連結）



■ 連結売上高

● 連結営業利益率

◆ 自動車部品（上場）122社平均

ご参考資料⑥ 前提為替レート

(円)

	2017 平均レート	2018 平均レート	2019 計画前提
米ドル	112.07	110.37	105.00
英ポンド	145.37	146.79	145.00
ウォン	0.0997	0.1002	0.1000
バーツ	3.31	3.41	3.30
人民元	16.63	16.64	16.50
ルピー	1.71	1.59	1.60
ペソ	5.95	5.75	5.80
ルピア	0.0083	0.0077	0.0075

X線透視画像機器を駆使した

Image Guided Therapy

内視鏡を駆使した

Endoscopy Therapy

機
器

カテーテル
ガイドワイヤー
ステント
コイル
バスケット他



低侵襲性

患者の
肉体的苦痛

短期入院

長期入院

手術の
安全性

手術の
安全性

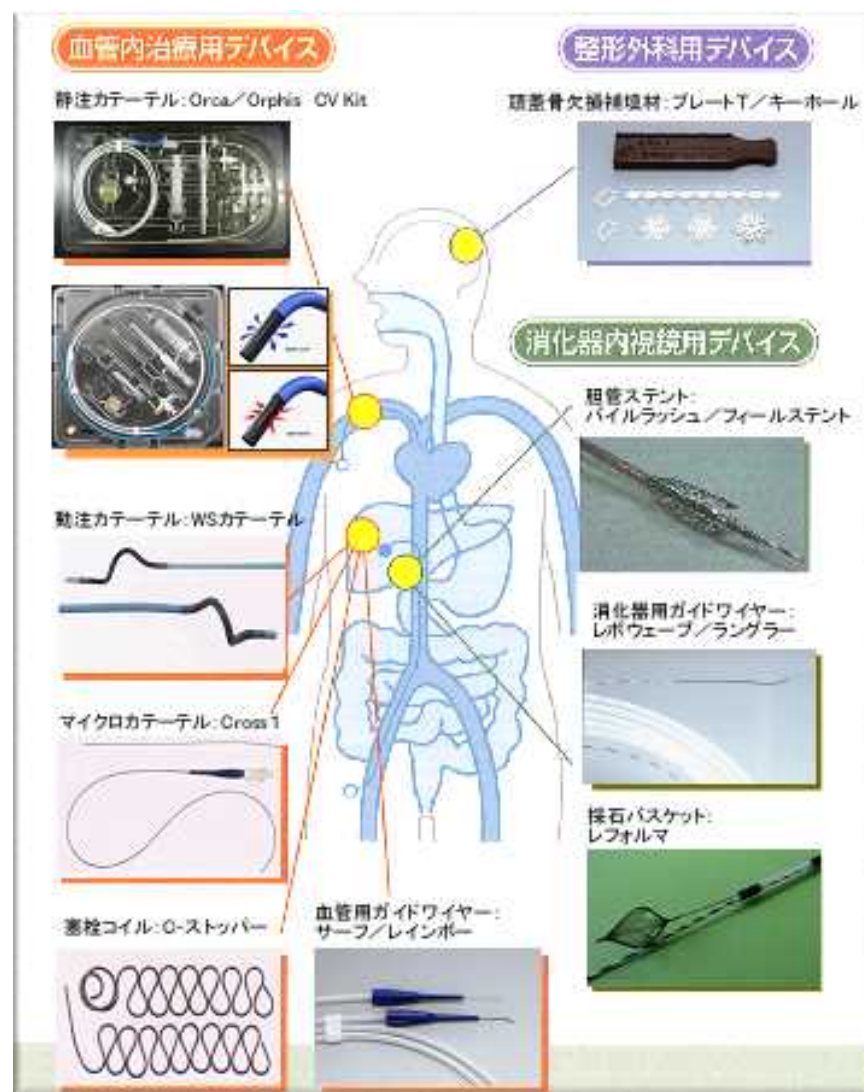
治療コスト
低減

高い
治療コスト

ご参考資料⑧（医療事業） “手技の標準化”を目指した製品

- ◆ ◆
- 「**血管内治療**」
「**内視鏡治療**」
に使用するための、
- ・ガイドワイヤー
 - ・カテーテル
 - ・金属及び樹脂ステント
 - ・塞栓用Pt.マイクロコイル
 - ・金属製 骨プレートほか
の開発

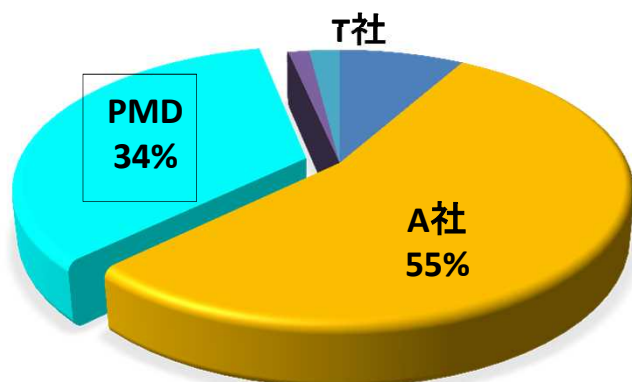
主に“**癌治療**”に使用



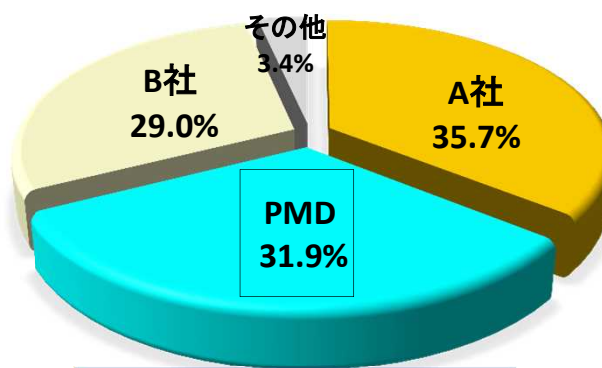
ご参考資料⑨（医療事業） 当社の得意分野（各種治療用ガイドワイヤ）

☆各種インターベンション（低侵襲治療）用ガイドワイヤを企画開発

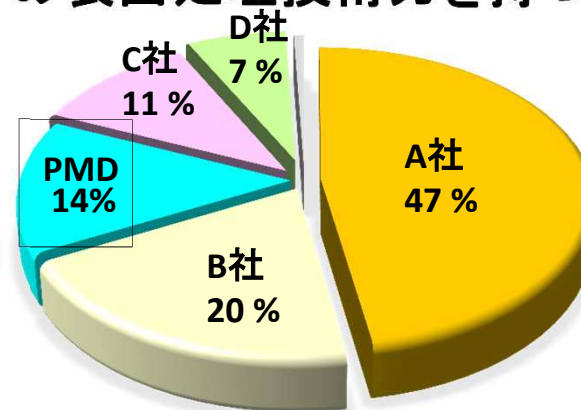
- ・ガイドワイヤのコア線に使用するNi-Ti合金の優れた加工ノウハウを持つ
- ・“親水性コーティング”及び“フッ素樹脂被覆”等の表面処理技術力を持つ



泌尿器内視鏡
GW: 34%
(市場規模: 110,000本)



消化器内視鏡
GW: 31.9%
(市場規模: 348,490本)



血管内(腹部)
GW: 14%
(市場規模: 75,700本)

《2019年度トピックス》

2019年5月1日付けで、**Olympus America Inc.**と弊社消化器内視鏡ガイドワイヤ“RevoWave”の北米における独占販売契約を締結しました。

※参考: 2018年度版矢野経済研究所 及び 2018年度版アールアンドディ社データからの自社推測値



本資料お取り扱い上のご注意

本資料に記載されている将来の当社に関する見通しは、現時点で当社が知りうる情報をもとに作成されたものです。

あくまでも現時点での将来予想であり、リスクや不確定要素を含んでいるため、実際の業績は見通しと大きく異なる可能性があることをご了承下さい。

